

(9) 事業後アンケート

本事業終了後に、児童・生徒に対してアンケートを実施し、事業前と事業後の結果の比較を行った。

Q：津波に襲われたとき、西尾市内において「浸水しない」と想定されている地域を把握していますか？		
	事業前	事業後
市内全域を把握している	13%	14%
市内一部を把握している	44%	63%
把握していない	43%	23%

Q：地震や津波など、災害に応じた避難場所や避難所を知っていますか？		
	事業前	事業後
知っている	45%	46%
ある程度知っている	47%	47%
ほとんど知らない	8%	7%

Q：あなたは家族と、地震などの災害について話し合うことはありますか？		
	事業前	事業後
よくある	6%	6%
たまにある	49%	53%
ほとんどない	45%	41%

Q：災害時、あなたにできることはありますか？		
	事業前	事業後
できることはある	65%	89%
人のためにできることがある	39%	74%

「浸水しないエリアの把握」については、津波避難訓練を実施したこともあり、市内一部を把握している児童・生徒の割合が増えた。今後は、訓練を実施していない学校や児童・生徒への周知の仕方について考えていく必要がある。

災害について家族と話し合っている割合は、ほとんど変化が見られなかった。今後は、保護者を巻き込み、保護者の防災意識も高められるような活動を検討していく必要がある。

最も変化が大きかったのが、「災害時にできることがある」と答えた児童・生徒の割合である。事業後は、9割近くの児童・生徒が、「災害時にできることはある」と回答しており、7割以上の児童・生徒が「人のためにできることがある」と答えた。様々な活動を通して、多くの児童・生徒が、災害と向き合うことができた。そして、自分や家族の命、そして故郷を守るために、「今、何をすべきか」「その時、何ができるか」を考えることができた。